

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価報告概要表

作成日 平成19年6月28日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 1072900523
法人名	有限会社サイコ・ソマティック ケアー
事業所名	グループホームアルプス
所在地	群馬県太田市藪塚町4149-3 (電話) 0277-79-0200

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年6月28日

【情報提供票より】(H19年6月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日
ユニット数	2 ユニット
職員数	16 人
利用定員数計	18 人
常勤	16 人
非常勤	0 人
常勤換算	14.6 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨ヘーベル 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	理美容代 おむつ代実費	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1400円			

(4)利用者の概要(6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	99 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	宏愛会第一病院、太田市藪塚本町国保診療所、小暮医院、金子歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員全員が地域密着型サービスを理解、意識しながら支援に結びつけるよう行動している。これまでの理念に加え、地域社会の一員として、地域に溶け込んで生活するように努力している。運営者が地元出身ということもあり、民生委員、区長とも顔なじみであることが活かされ、また利用者や近所の人との接触も多く、野菜をもらったり、その近所の家でお茶を飲んだりと楽しく過ごしている。納涼祭等施設の行事には積極的に近隣の方々にも参加してもらっている。また家族とのかかわりにおいては、大型バスによる年1回の日帰り旅行を去年より実施するなど積極的な働きかけが試されている地域密着型の施設であるといえる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価での話し合い内容を職員全員で十分に吟味し、積極的に改善、具体的なケアに盛り込んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員で作成し、サービス評価の意義や目的を全職員が理解している。また改善すべき点については、具体的な改善策を立てて職員会議で話し合っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催しており、活発な意見交換が会議内で展開されている。また、会議に参加しているメンバーからの情報を活用した行事の企画、実施や反対にホームの行事等を参加メンバーを通じて広報するなど、ホームの運営にあたって運営推進会議が有効に活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者が窓口となり、家族の訪問時・家族会開催時等、常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している。家族からの意見や苦情等については、会議内で取り上げ、具体的なケアや運営に反映している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	運営者が地元の出身であることを積極的に活かし、区長や民生委員との組織的に連携を図っている。また日常的にも散歩や野菜作りを通じて近隣の住民との自然な交流が図られている。

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加えて、地域社会の一員としての地域密着型サービスの意義を職員全員で、確認し、果たすべき役割を反映した独自の理念の内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念をホーム内随所に掲示してある。また、毎月第一木曜日に開催し、毎回ほぼ全員が参加している定例全体会議(ケアカンファレンス)時、朝の申し送り時に理念を読み上げ、職員間の理念の共有化と具体化に結びつけている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域密着を意識しながら行動している。地域の文化祭やお祭り等には、利用者とともに積極的に参加している。また、納涼祭等のホームの催事には、近所の方々または、ボランティアにも協力してもらっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全員で作成し、サービス評価の意義や目的を全職員が理解し、改善すべき点については、具体的な改善策を立てて全体職員会議で話し合っている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催しており、事業所とともに、参加メンバーから質問、意見、要望、又はアドバイスを受け双方で意見交換できるような会議になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	太田市元気おとしより課や包括支援センター、保健センターを訪問し、事業を行なっていく上で、生じる運営やサービスのアドバイス等、積極的な情報提供を重ね関係をつくり、連携をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	開設時より、2ヶ月に1回発行している。ホーム新聞で一般的な生活ぶりを報告して、個人の報告については、月1回利用料支払い時家族と面会し金銭出納帳、行事の写真等を見てもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が窓口になり、ご家族の訪問時、家族会等で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見、要望等はミーティングで話し合い運営に反映している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することが重要だと考えており、2人1組で3名の利用者に関わっている。職員の異動は必要最低限に抑えており、異動、解離がやむを得ない場合は、引継ぎ期間を十分とり、利用者家族へ良く説明して、理解を得るようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、パート職員にもチームの一員として、研修、会議等には積極的に参加している。参加者は、全体会議で研修内容等を報告し研修内容を職員全体で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	群馬県認知症高齢者グループホーム連絡協議会には、積極的に参加し、情報交換をし、他の事業所の人材の意見や経験をケアに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族が事業所を見学してもらうことから始め、やむを得ず、すぐに入居になった場合には、家族やそれまでかかわっていた関係者からの情報収集や家族に来所していただくなど、安心感を持ってもらうよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の生活歴や特技、趣味などを把握し、利用者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、家庭菜園においては、経験豊かな利用者からいろいろとアドバイスをもらうなど、利用者職員がともに過ごし、支えあう体制がとられている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から個人の思いや希望の把握に努め、言葉や表情などからその真意を推し測ったり、それとなく確認するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、全職員がかかわり、本人や、家族からは日頃のかかわりの中で、思いや意見を聞き、計画に反映させている。最終的に介護計画は全職員参加のケアカンファレンスでまとめ完成させ、家族には、説明し記名をもらって一部渡している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員が状況、状態の変化を確認し、状況が変化した場合に職員を招集しケアプランの見直しをしている。変化がみられない場合でも3ヶ月に1回会議にて見直しをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。また、訪問看護ステーションとの連携体制をとっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	一人ひとりの利用前の受診の経過、現在の受診の希望を把握して、本人や家族が希望するかかりつけ医となっている。家族等と受診時の通院介助の方法、情報伝達方法について話合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアが対応可能であることを家族にアンケートを行ったがその場にならないと決められないとする回答が多かった。そのため今後個々に相談して対応することになっている。	○	現段階では家族への終末期ケアに関するアンケート実施だけにとどまっているが、今後は他の先駆的な取り組みなどを参考に具体的なホームの方針を定めていただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「適切でない言葉」のかけ方については、全体会議等で、事例をあげながら注意している。人前での介護、誘導の声掛けにも、目立たず、さりげない言葉掛けや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個性のある支援を行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて、職員と一緒に調理、盛り付け、配膳、下膳を行なっている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事できるようにしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の曜日と時間帯は一応定めてあるが、入浴したい日、希望の時間に入浴している。他のユニットでの入浴も可能であるので、夜間、異なる曜日等、利用者の意向に沿って行なっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな役割(調理の片付け・体操の号令かけ)を頼んでいる。昔の歌を好む人、テレビを好む人、読書の好きな人、農作業の好きな人など、生活歴を反映した楽しみごとを把握し行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気、本人の気分や希望に応じて、必ず外出するようにしている。運営者が地元の人なので近所の方の家におじゃましてお茶をいただくこともある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室及び日中の玄関の「かぎ」をかけないようにしている。玄関は事務所の前を通るので、必ず職員がいるため見守りは徹底している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、年2回利用者とともに避難訓練を行なって、消防署員の評価をお願いしている。地域の人々への協力もお願いしている。	○	地域の人々への協力もお願いしているが、実際的な地域住民参加の訓練や取り組みは実施されていない。すでにマニュアルは整備されているので地域を含めた具体的な対策も盛り込んでいただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量、残量等は毎日のチェック表に記録し、職員が情報を共有している。特に水分補給についてはお茶、麦茶などを用意し、いつでも好きな時に飲めるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の生活空間には、季節の花や植物、絵画や季節ごとの利用者の作品、写真などを配置し、利用者が自分の住んでいる家という意識を高める工夫をしている。水彩画数点は、近隣の絵画クラブの好意で借りたものをその時々でかけかえている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、使い慣れた家具、調度品を持ちこでいる。また、家族の写真や思い出の品を壁面に飾るようにして、利用者の居心地のよさに配慮している。		